

令和2・3・4年度 青森県立青森第二養護学校 研究構想図

学校教育目標

児童生徒一人一人の障害の状態に応じた指導を通して、それぞれの可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加のための生きる力を育む。

目指す子ども像

自分なりに判断し、周囲との関わりの中でよりよく生きようとする児童生徒

研究主題

「知的障害特別支援学校における内面の育ちを促す道徳科の授業」

研究仮説

知的障害のある児童生徒の道徳教育における指導内容の重点を明らかにし、各教科等と横断的に結びつけた学習活動に位置付け、計画的に展開するとともに、道徳科におけるPDCAを意識した授業改善を図ることで、児童生徒の主体的に道徳性を養う力を育み、内面の育ちを促すことができるのではないか。

道徳教育：道徳性（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）の育成

「道徳科」を
中心に

授業づくりの視点
○自己を見つめる
○多面的・多角的に
考える
○考えを深める

授業改善



指導と評価の一体化

3年次

- ・授業実践の蓄積、共有
- ・評価方法の検証
- ・まとめ

「合わせた指導」を
中心に

2年次

- ・授業づくり、授業改善
- ・指導内容、方法の検討
- ・評価方法の検討

道徳教育の方針の
共通理解
○道徳教育全体計画
○指導の重点
○各教科等との関
連、指導内容の位
置付け
○指導計画と内容の
取扱い等

1年次

- ・基本的な考え方を学ぶ
- ・教科等横断的な視点と
授業実践

○「道徳性」を養う指
導場面と内容項目
の整理

○「主体的・対話的で深い学び」の視点をふまえた授業における成果と課題

【成果①】より主体的に、周囲の関わりの中で思考を働かせて学ぶ意欲をもった児童生徒の姿

【成果②】次の学習への意欲をもち学びを深める児童生徒の姿

【課題】「内面の育ち」の評価方法や各教科等との関連を図った学習内容の組み立て